

藤松健康づくり通信

NO. 118

令和8年(2026)1月1日

藤松健康づくり委員会

事務局 藤松市民センター

TEL 391-6411

藤松まちづくり協議会 健康づくり委員会 内科編

最近の内痔核（いぼぢ）の治療

健康づくり委員会 顧問

医療法人 石本医院

理事長 石本 稔



【内痔核（いぼぢ）とは】

肛門の少し中にある血管が膨らんでできる病気のことです。痔が悪くなると肛門から飛び出して排便後に指で戻さないといけなくなったり出血したり痛みが出ることがあります。そのような症状が出た場合は治療を検討することが大切です。

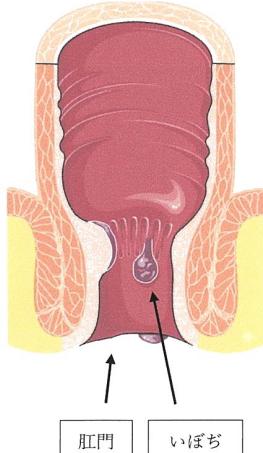
【治療法について】

痔の治療には切って治す他に注射で固める方法があります。今日は注射で固める方法を紹介します。

【注射療法 (ALTA 療法／ジオン注射)】

手術をせずに、痔核（いぼぢ）に特殊な薬剤を注射し、痔核を固めて小さくする治療法です。切り取る必要がないため、術後の痛みが少なく、入院期間も短い（日帰り～数日）のが最大の特長で、内痔核（いぼぢ）の治療に広く使われるようになってきています。

ALTA 療法を行うには特殊な資格が必要ですが、当院では2026年4月からALTA 療法の資格を持つ医師が常勤になります。いぼぢでお困りの際はぜひご相談ください。



藤松健康づくり通信

NO. 118

令和8年(2026)1月1日

藤松健康づくり委員会

事務局 藤松市民センター

TEL 391-6411

藤松まちづくり協議会 健康づくり委員会 歯科編

歯周病と認知症の関係について

歯周病 認知症



健康づくり委員会 顧問

にった歯科医院
院長 新田 洋司



最近の研究で、歯周病が「もの忘れ」や認知症と関係していることが分かってきました。歯周病は歯ぐきが赤く腫れたり、血が出たりする病気で、進むと歯を失う原因にもなります。原因となる細菌が血液に入り、脳に炎症を起こすと、記憶や判断力をつかさどる神経が傷つき、認知症の危険が高まると考えられています。

さらに、歯周病と認知症は互いに悪循環をつくることもあります。歯ぐきが弱ると食べる力が落ち、栄養不足になりやすくなります。一方で、認知症が進むと歯みがきがおろそかになり、歯周病がさらに悪化するのです。

この悪循環を防ぐために、次のような予防法が役立ちます。

- 毎日の正しい歯みがき
朝と夜に丁寧にみがきましょう。歯間ブラシや電動歯ブラシも効果的です。義歯も丁寧に清掃しましょう。
- 定期的な歯科検診
早めに歯ぐきの異常を見つけることができます。
- 禁煙とお酒の控えめな摂取
口の中の環境を守り、歯周病の進行を防ぎます。
- 十分な睡眠と軽い運動
体の抵抗力を高め、歯と脳の健康を支えます。
- 家族や介護者の協力
高齢の方は口腔ケアを手伝ってもらうことが大切です。

「歯ぐきを守ることは、脳を守ること」。

お口の健康は心と体の元氣につながります。日々の小さな習慣が、未来の大きな安心につながるのです。